おわりに

これまでに見てきたとおり、金沢市はすでに、経済界と市民、行政が手を携えて、創造都市の実現に向けて着実な歩みを進めており、金沢創造都市会議においては準備段階を含めるとすでに10年の実績があり、官民一体となって、金沢市民芸術村や金沢21世紀美術館を活かした創造人材の養成や創造産業の振興、都心再生など総合的な都市政策を展開してきた日本の創造都市の代表であると自負がある。

このたび、ユネスコ創造都市ネットワークのクラフト分野への申請にあたり、グローバルな視点から見た都市・金沢が登録される意義と重要性は、以下の点にまとめられよう。

第1に、アジア、とくに日本的な特徴を色濃く帯びた工芸都市であり、アジアにおける創造都市の誕生は、ユネスコが提唱する文化的多様性の実現に資するという点である。フォークアートの分野では、すでに、サンタフェとアスワンが認定されているが、アジアにおいては、いまだ認定されておらず、金沢が認定されることによって、ユネスコが提唱する文化的多様性がクラフトの面においても実現することになる。また、アジアの中でも、金沢は、日本文化の固有性が際立った都市であるということに特別の意味があり、サミエル・ハンチントンが世界文明の類型化にあたって中国やインドとも異なる類型として日本を取り上げているように、単に、東洋と西洋という対比にとどまらない視点が見出されるのである。

第２に、金沢市は人口45万人という中規模都市であり、その代表として、登録を目指す点である。世界的には、人口30～50万人の規模の都市が大多数を占めており、サンタフェ等と異なり、それら中規模都市の代表としてユネスコ創造都市のネットワークに加わることには大きな意義があろう。

第３に、地球規模の課題である環境面からも、創造都市ネットワークの発展にとって有意義であるという点である。昨今の地球環境の危機的状況において、都市環境の維持可能性は大きな課題になっており、化石燃料を大量に消費しない手仕事のまち、金沢の登録は、その面からも、創造都市ネットワークの発展にとっても有意義なことであろう。

最後に、創造都市の世界的なネットワークの広がりを通じて、発展途上国の工芸振興、ひいては世界平和の実現に寄与していきたい、ということである。金沢の歴史を振り返ったとき、約420年余りの間、戦禍に遭わず、文化を育んできたことから、世界平和に対する市民の思いは大きなものがある。また、これまでも国際協力シンポジウムの開催や国際的な人材交流などを通し、発展途上国を始めとする諸外国における工芸の振興や工芸を担う人材の育成に努めていることからも、金沢は、創造都市の世界的なネットワークの広がりによって、より一層、世界的な工芸振興、世界平和の実現に寄与していくことができるのである。

金沢市は、他のユネスコ創造都市とともに、市場における芸術家同士の交流や、ネットワークのメンバーが経験できるクリエイティブ・ツーリズムの機会を創り出すこと、さらに、ユネスコ創造都市のメンバーの間で、革新的な技術のデザインを高めるための工芸技法についての交流といった分野に参加するよう心がけていく。

以上の点から、ユネスコ創造都市ネットワークに金沢市が登録されることは、日本やアジアにとってのみならず、世界の都市と市民にとっても大きな意義があるのである。

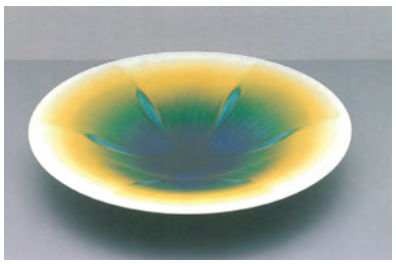
【参考資料】

▼金沢創造都市推進委員会名簿

役　　職	氏　　名	肩　書　き
顧　　問	大樋　長左衛門	金沢市工芸協会会長
会　　長	山　出　　保	金沢市長
実行委員長	福　光　松太郎	金沢創造都市会議実行委員長 （社団法人金沢経済同友会副代表幹事）
副実行委員長	佐々木　雅　幸	NPO法人金沢創造都市フォーラム副理事長
副実行委員長	森　　源　二	金沢市副市長
委　　員	秋　元　雄　史	金沢21世紀美術館館長
委　　員	久　世　建　二	金沢美術工芸大学学長
委　　員	作　田　　勝	金沢工芸普及推進協会理事長
委　　員	中　川　　衛	金沢市工芸協会理事長
委　　員	中　島　秀　雄	金沢ファッションウィーク実行委員長 （金沢商工会議所副会頭）
委　　員	藤　村　盛　造	金沢ファッション産業創造機構機構長

役　　職	氏　　名	肩　書　き
幹　　事	相　川　繁　隆	金沢卯辰山工芸工房館長補佐
幹　　事	市　島　桜　魚	金沢学院大学美術文化学部教授
幹　　事	大　樋　年　雄	金沢市工芸協会副理事長
幹　　事	川　本　敦　久	金沢美術工芸大学造形芸術総合研究所所長
幹　　事	志　甫　雅　人	財団法人石川県デザインセンター 事務局次長兼チーフディレクター
幹　　事	永　井　　隆	社団法人金沢職人大学校事務長
幹　　事	丸　口　邦　雄	金沢市都市政策局長
監　　事	村　浜　　肇	社団法人金沢経済同友会事務局長
監　　事	小　柳　正　人	金沢市会計課長

▼金沢の主な伝統工芸（22業種）

名　称	概　　要
加賀友禅	加賀梅染に、江戸時代に友禅染めの祖である宮崎友禅斎が彩色を手掛けて以来、高いブランド価値を維持している。
九谷焼 （金沢九谷）	約200年前から華麗な色絵を重んじ､「五彩」とよばれる、赤・黄・緑・紫・紺 青の５色での絵の具を厚く盛り上げて塗る彩法が特徴。 
金沢仏壇	藩主前田利常の頃、江戸や京都から名工たちを加賀藩細工所に呼び集めて基礎を築いた。
金沢箔	藩祖前田利家が箔の製造を命じて以来発展し、現在は金箔製造の99%を占めている。

名　称	概　　要
金沢漆器	藩細工所に呼び集められた蒔絵師、五十嵐道甫や清水九兵衛により技術が伝えられ発展した。
加賀繍	室町時代、仏教の布教に伴い、仏前の打敷や僧侶の袈裟など装飾技法として京都から伝えられた。
大樋焼	藩主前田綱紀が京都から招いた千宋室仙曳に同道した陶工初代土師長左衛門が伝えた飴色の楽焼。
加賀象嵌	刀装具などに用いられる金属加飾法で、現在では、花器などへの近代的な装飾として用いられている。
加賀毛針	加賀藩で武士の内職として作られた鮎釣り専用の針で、野鳥の羽毛を使い金箔が施されている。

名　称	概　　要
茶の湯釜	五代藩主に仕えた宮崎彦九郎の子・義一が始祖で、一貫工程によるきめの粗い肌が特徴。
銅鑼	人間国宝である故初代魚住為楽によってその製法が見出され、代々継承されている。
二俣和紙	献上紙漉き場として藩の特別な庇護を受け、加賀奉書など高級な公用紙が漉かれてきた。
金沢和傘	藩政時代より明治・大正と盛んに作られ、貼り込む紙に楮紙を用いて、丈夫であることが特徴。
三弦	藩政時代からの芝居、そして東、西、主計町の花柳界を中心に発展を遂げ、音色を重視してきた。

名　称	概　　要
加賀水引	加賀藩では実用品よりも装飾品として用いられ、現在でも水引の技術も進歩している。
竹工芸	加賀藩細工所の竹工が始祖で、茶道具や華道の隆盛とともに芸術的な竹工芸の技術が発展した。
加賀提灯	16世紀後半から松明代わりに作られ、竹骨を一本一本輪にして留めてあり、丈夫なことが特徴。
金沢桐工芸	良質の桐材とろくろ木地師の技、そして加賀蒔絵の伝統が、金沢桐工芸の基礎を作り上げた。表面を焼いて磨いた独特の焼肌が特徴。
郷土玩具	加賀藩三代藩主の前田利常が人形師に作らせたのが始まりといわれ、その後は武士の手内職として受け継がれた。

名　称	概　　要
加賀竿	漆塗りや加飾がほどこされ、優美さと堅牢さが特長である。本物志向の支持を集め、釣竿の最高級品として根強い人気を保ちつづけている。
琴	蒔絵や螺鈿をふんだんに使った雅なものが多く、楽器の域を超えて芸術品や装飾品といった趣があることが特徴。
金沢表具	藩政時代には御用表具師がいた記録があり、京表具、江戸表具と並び全国に知られる。文化財の修復にも活かされる高度な技術が特徴。

▼工芸関連団体の現況

1 金沢市工芸協会

(1)所在地　金沢市
(2)設　立　1957年(前身の金沢市意匠図案研究会は1938年設立)
(3)会　長　大樋 長左衛門
(4)会員数　163名

2 金沢工芸普及推進協会

(1)所在地　金沢市広坂1−2−25
(2)設　立　2002年
(3)理事長　作田 勝

3 協同組合加賀染振興協会

(1)所在地　金沢市小将町8−8
(2)設　立　1973年
(3)理事長　石山 外司郎
(4)会員数　287名

4 金沢九谷振興協同組合

(1)所在地　金沢市片町1−3−22
(2)設　立　1969年
(3)理事長　鏑木 基由
(4)会員数　39名

5 金沢仏壇商工業協同組合

(1)所在地　金沢市武蔵町8−2
(2)設　立　1959年
(3)理事長　山田 泰造
(4)会員数　42名

6 石川県箔商工業協同組合

(1)所在地　金沢市福久町ロ172
(2)設　立　1950年
(3)理事長　蚊谷 八郎
(4)会員数　129社

7 金沢漆器商工業協同組合

(1)所在地　金沢市尾山町9−13
(2)設　立　1978年
(3)理事長　岡 能久
(4)会員数　57名

8 石川県加賀刺繍協同組合

(1)所在地　金沢市東力町1−130
(2)設　立　1990年
(3)理事長　今井 潔
(4)会員数　8名

9 石川県クラフトデザイン協会

(1)所在地　金沢市別所ム3−34
(2)設　立　1972年
(3)会　長　小堀 幸穂
(4)会員数　47名

▼団体等のホームページ

金沢市民芸術村

http://www.artvillage.gr.jp/#

金沢21世紀美術館

http://www.kanazawa21.jp/ja/index.html

金沢美術工芸大学

http://www.kanazawa-bidai.ac.jp/www/contents/top/index_noflash.html

金沢職人大学校

http://www.k-syokudai.or.jp/

金沢卯辰山工芸工房

http://www.utatsu-craft.gr.jp/

金沢ファッション産業創造機構

http://ockfi.kanazawacity.jp/

オーケストラ･アンサンブル金沢

http://www.orchestra-ensemble-kanazawa.jp/

金沢工芸普及推進協会

http://www.crafts-hirosaka.jp/kougei/

協働組合　加賀染振興協会

http://www.kagayuzen.or.jp/

金沢仏壇商工業協同組合

http://kanazawa-butsudan.or.jp/

石川県加賀刺繍協同組合

http://www.kaganui.or.jp/

▼金沢美術工芸大学の変遷

1946年	金沢美術工芸専門学校を設立 （本科3年、予科1年制　美術科45人、陶磁科30人、漆工科30人、金工科15人　計120人）
1950年	1950年　金沢美術工芸短期大学を設立 （3年制　美術科45人、工芸科75人　計120人）
1955年	金沢美術工芸大学を設立 （4年制　美術科40人、産業美術学科60人　計100人）
1965年	美術学科定員を1学年40人から55人に増員 産業美術学科に工芸･繊維デザイン専攻15人を設置　計130人
1970年	聴講生制度を設置
1972年	美術工芸研究所を設置、新校舎完成
1979年	大学院を設置、大学院棟完成 （絵画･彫刻専攻、産業デザイン専攻修士課程）
1986年	美術学科に芸術学専攻10人を設置　計140人 伝統工芸聴講生制度を設置
1990年	大学院に芸術学専攻修士課程を設置
1991年	工芸デザイン専攻を1学年15人から20人に増員　計145人
1992年	工芸実習棟完成
1996年	美術工芸学部、美術科、デザイン科、工芸科を設置
1997年	大学院に美術工芸専攻博士後期課程を設置
2000年	大学院修士課程を再編 （絵画専攻、彫刻専攻、工芸専攻、デザイン専攻）
2001年	映像メディア室を設置
2005年	大学院修士課程デザイン専攻にファッションデザインコースを設置
2007年	美術工芸研究所を造形芸術総合研究所に改称

▼金沢美術工芸大学の卒業生数（デザイン及び工芸）

金澤美術工藝專門學校、金澤美術工藝短期大學　計 232人

1950～1959年卒業	陶磁　106人 漆工　79人 金工　47人

金沢美術工芸大学　計 3,840人

（学部）

1958～1999年卒業	商業デザイン　1,162人 工業デザイン　1,161人
1969～1999年卒業	工芸デザイン　507人
2000～2008年卒業	視覚デザイン専攻　175人 製品デザイン専攻　173人 環境デザイン専攻　176人 工芸科　174人

（大学院修士課程）

1981～2008年卒業	視覚デザインコース　39人 製品デザインコース　45人 工芸デザインコース、工芸専攻　202人
2002～2008年卒業	環境デザインコース　16人
2007～2008年卒業	ファッションデザインコース　6人

（大学院博士後期課程）

2000～2008年卒業	プロダクト　2人 環境　1人 工芸　4人

▼金沢美術工芸大学の卒業生たちの活躍状況

塗師祥一郎	1953年　洋画科卒業 洋画家、日本芸術院会員、日展常務理事 日展で２度の特選、1997年には文部大臣賞を受賞。2003年、日本芸術院賞を受賞。
田保橋　淳	1953年　美術学科卒業 クリエイティブディレクター 株式会社電通に入社し、松下電器やソニー、ビクターなど大手企業の広告デザインを担当し、数多くの広告賞を受賞。
土肥　信一	1955年　洋画科卒業 メトロポリタン美術館学芸員 1965年より、ニューヨーク・メトロポリタン美術館で美術品の修復スタッフとして、世界各国の国宝級の美術品修復を手がけている。
前　　史雄	1963年　美術学科卒業 漆芸作家、人間国宝「沈金」 人間国宝の前大峰より沈金の技術を学ぶ。1971年に日本工芸会正会員となり、1973年日本伝統工芸展文部大臣賞、1992年日本伝統工芸展総裁賞を受賞。
中川　　衛	1971年　産業美術学科卒業 加賀象嵌作家、人間国宝「彫金」、 金沢美術工芸大学教授 1974年、加賀象嵌作家の高橋介州氏に師事し象嵌を学ぶ。1979年から日本伝統工芸展で連続入選。2004年、彫金で重要無形文化財保持者「人間国宝」の認定を受ける。

川崎　和男	1972年　デザイン科卒業 デザインディレクター、医学博士 毎日デザイン賞、ニューヨーク近代美術館永久展示、フランスシルモ展デザインコンペのグランプリ等、国内外のデザイン賞を個人として最多受賞している。
早川　和良	1975年　彫刻科卒業 CMディレクター、株式会社CampKAZ代表取締役 ソニーやライオン、JR東海など大手企業のヒットＣＭを手がける。カンヌ国際広告祭金賞、ニューヨークフェスティバル国際広告賞金賞など数多くの広告賞を獲得。
宮本　　茂	1977年　デザイン科卒業 任天堂株式会社　代表取締役、ゲームクリエイター スーパーマリオブラザーズやドンキーコング等の作品制作、Wiiの開発など、世界的に有名なゲームクリエイター。「現代コンピュータの父」「テレビゲーム界の魔術師」等といわれ、2007年、米タイム誌の「世界に影響を与えた100人」に、日本人としてトヨタ自動車の渡辺社長と並んで選ばれた。
日高　一樹	1977年　工業デザイン科卒業 日高国際特許事務所　所長 弁理士として特許出願業務とともに、商品のデザイン・技術開発から経営コンサルティングを手がける。
小泉　　巌	1982年　産業美術学科卒業 マツダ株式会社　チーフディレクター 東洋工業株式会社（現マツダ）に入社し、初代フェスティバ、ユーノスコスモ、プレマシーなどのデザインを手がける。
丹羽　政良	1983年　商業デザイン科卒業 株式会社電通　インタラクティブディレクター 大手企業の新聞、雑誌の広告を手がけ、多くの広告賞を受賞。

大蔵　泰平	1986年　大学院産業デザイン専攻修了 株式会社電通　クリエイティブディレクター トヨタ、カルピスなど大手企業のグラフィックを担当。
石川　善都	1991年　大学院製品デザイン専攻修了 松下電器産業株式会社　モバイルグループ コミュニケーションチーム　チームリーダー コミュニケーションツールデザインを軸に携帯電話ドコモPシリーズ・家庭用コードレス電話などのデザイン開発を担当。
細田　　守	1991年　美術科卒業 アニメーション監督 2006年に公開されたSFアニメ映画「時をかける少女」を監督。同作品は、第30回日本アカデミー賞で、最優秀アニメーション作品賞を受賞。

【別添】

世界工芸都市宣言

私たちのまち金沢は、香り高い伝統文化と四季折々の美しい自然の中で、多くの名工を輩出し、世界に誇る幾多の手技による名品を生み出すとともに、市民生活の中に格調高い技と美に対する豊かな感性をはぐくんできた。

私たちすべての市民は、

1　美しい伝統的･文化的遺産と環境の保全
1　伝統的で高度な技法･技術の継承と後継者の育成
1　未来に向けた生き生きとした創造精神の発揚
1　新しい独自の個性を持った創作活動の支援

を基本に、さらなる新しい「ものづくりのこころ」を世界に向け継承、発信していくことを宣言する。

1995年9月26日議決

伝統工芸と環境に関する「金沢アピール」

1997年11月7日

1997年11月6〜7日の両日、石川県金沢市に於いて、いしかわ国際協力研究機構主催、国際連合大学高等研究所協力による国際協力シンポジウム「伝統工芸と環境·地域振興の可能性を求めて」が開催された。基調講演に国際連合大学学長ハンス·J·A·ファン·ヒンケル氏、基調報告に世界工芸協議会のオマール·ベナブダラー氏を迎え、シンポジウムのパネリストを含む多くの参加者と共に伝統工芸と環境について活発な議論が交わされた。

当シンポジウムに参加した我々一同（別添）は、シンポジウムで表明された様々な意見等を踏まえ、伝統工芸の振興と環境の改善、地域の振興、ひいては生活の向上を図るため、人々の伝統工芸に対する意識の向上を促し、更にまた伝統工芸を環境と関連づけながら振興させていくための新しい方法を模索するという共通の見地から、以下の現状認識を提示し、提言する。

現状認識:

1　伝統工芸は人々の真の文化的アイデンティティ（独自性）の象徴であり、それは自然環境と調和しながら発展した文化遺産の重要な要素であって、過去の伝統と結びつくと同時に、将来に引き継がれていくものである。

2　伝統工芸の役割は、社会形成にきわめて重要なものがあり、通信技術、コンピューター、情報管理、自動化などの進歩によって先導され、もたらされた激変に押し流されている現代社会において、自己のアイデンティティと全体性を維持していく上で伝統工芸の重要性は増している。

3　莫大な数量で大量生産される商品が生み出す現代のストレスに満ちた社会では、手作りで世代から世代に伝承されてきた伝統工芸は、特別な人間的価値をもっている。

4　伝統的職人の技能は、単に過去のスタイル（形）を模倣し、技法を保持してきただけのものではなく、伝統の上に磨かれてきたものであり、伝統工芸は純粋な芸術的表現を通じて職人固有の技能と創造性で文化的遺産を表現したものである。

5　多くの発展途上国では工芸品の生産は、特に女性、その他社会的弱者に対する雇用の手段として重要であり、貧困の軽減につながり、これらの国々の経済、特に地域の振興のために役立つものととらえられている。

6　伝統的手工芸品は多くの国々で一般に工業製品との価格競争の結果として消滅しつつあり、またその職人の賃金は平均賃金よりかなり低い水準になっている。

7　多くの国々では、工芸職人の仕事に関心をもつ若者の数が減少しており、また原材料と道具を供給する中間者も同様である。これらの後継者不足は伝統工芸の将来に危機的な結果をもたらす恐れがある。

8　伝統工芸の職人が誇りをもって工芸に携わり、同時にそれを助成し発展させていくために、国際的協力及びアイディア（技術）の交流を促進する新しい方法を模索しなければならない。

9　伝統工芸は、そのコンセプト（概念）やデザインをより柔軟に変え、新しい市場と使用者の要求に対して対応が可能である。

10　環境保護は既に周知の大きな課題であり、環境の改善は全人類の緊急の念願となっており、産業界及びビジネス界は環境破壊を防ぐ上で、主な役割を果たす可能性を有している。

11　持続可能な開発は、現代の消費生活において大量生産によってもたらされた使い捨て指向から、より耐久性があり、エネルギーと原材料の節約につながる商品指向への変化を必要としている。

12　地域内での自然の原材料の不足が伝統工芸に悪影響を及ぼすことから、環境保全は伝統工芸の原材料確保にとって極めて重要である。

13　一般に伝統工芸のもつ価値への人々の認識は不十分であり、その向上のための具体的取り組みが必要である。

14　多くの分野の組織・機関、特に企業、地方・中央政府並びに個人は、各々の価値基準や活動を集約させて、伝統工芸の今後の発展を具体化していくべきである。

15　伝統工芸への振興を適切に効果的に進めるためには、それぞれの国の社会的、文化的側面を考慮することが重要である。

提言

我々は、世界工芸協議会（WCC)、工芸振興国際センター（CIPA)、国際伝統工芸振興事業団（AIDA)、国際連合大学（UNU)、国連教育科学文化機関（UNESCO)、国際貿易センター（ITC)、各国及び地域の工芸協議会･協会、企業や大学、研究機関、地域の指導者、その他伝統工芸に関心を持つ全ての政府･行政機関に対し、以下のことを訴える。

1　産業として存続可能で、文化的価値を伴い、そして環境に優しい伝統工芸品が日常生活で使われ、美しさが保たれ、価格的にも購入可能なものとして、発展、促進されるために、特別な注意が払われるべきである。

2　良質の家や環境に優しい建造物を建築するために、建築、建設分野においても配慮されるべきである。

3　工芸職人の所得向上の観点から、雇用の機会を増やし、公正で利益のある価格設定がなされるよう努力すべきである。

4　若い世代に伝統工芸を正しく評価してもらえるよう、その推奨に務め、後継者の育成に必要な手段が講じられるべきである。

5　必要に応じて調査、研究、研修、教育の活動を行い、環境に優しい伝統工芸の振興と更なる市場獲得のための新しい技術、デザイン、アイディアを普及させるよう努力すべきである。

6　各国は工芸や環境、また人々の健康にとって安全性の確保を目的に、伝統工芸と環境の調和を示すため、原材料を明示するシステムを確立すべきであり、まずは食生活に関わる器物及び、玩具から始めるべきである。

7　教育や意識向上を目的としたキャンペーン等を通じ、工芸への認識を高め、またメディアの協力により、工芸職人の仕事に関し知識を普及させ、伝統工芸品への敬意や評価を高めていくべきである。

8　環境に敏感でかつ文化を尊重した方法で伝統工芸を振興していくために、工芸職人、デザイナーと、産業界の間でよりよい意志疎通を図るべきである。

9　伝統工芸に関する知識・理解、意識の向上や、伝統工芸の復興ないし保存は、人類の存続及び自然環境を身近に感じ、文化的な独自性を維持したいという人間の欲求と願望に結びついていることを認識すべきであり、そのための国際的な協力関係や意見交換の促進が望まれる。

10　このアピールの精神を反映し、将来の活動内容を具体化するための専門作業グループを組織すべきである。

我々一同は、以下の事項を確認する。

以上に述べた活動を体系的かつ円滑に推進するため、この国際シンポジウムに参加した個人・組織によるネットワークを構築し、更にインターネット等を通じてこの問題に関心を持つ人々にネットワークへの参加を呼びかけ、対話と意見交換のシステムを拡げる。

伝統工芸分野の振興、及び発展に努め、決断力、希望、協力、そして協調性をもった活動が必要であることに同意し、21世紀に向けての国際的なネットワーク構築に邁進する。

別添

伝統工芸と環境地域振興の可能性を求めて
1997年11月6、7日 石川県金沢市にて

パネリスト

（アルファベット順）

オマール・アミネ・ベナブダラー
（Omar Amine Benabdallah）
世界工芸協議会会長
モロッコ

ドミニク・ブシャー
（Dominique Bouchart）
国際伝統工芸振興事業団事務局長
フランス

グヨン・チャン
（Guyon Chung）
グヨン建築設計事務所代表
韓国

乾　由明
（Yoshiaki Inui）
金沢美術工芸大学学長
石川県

上出　兼太郎
（Kentaro Kamide）
石川県九谷陶磁器商工業協同組合
連合会理事長
石川県

鹿野　勝彦
（Katsuhiko Kano）
金沢大学文学部教授
石川県

熊野谿　從
（Jyu Kumanotani）
東京大学名誉教授
東京都

アフマッド・モクタン
（A.K.P. Mochtan）
国際戦略問題研究所研究員
インドネシア

プラニ・オブハサノンド
（Prani Obuhasanond）
タイ家内･手工芸産業開発局副部長
タイ

小川　長楽
（Choraku Ogawa）
日本工芸協議会副会長
京都市

ビジャヤ・ラジャン
（Vijaya Rajan）
世界工芸協議会アジア地区副会長
インド

坂本　憲一
（Kenichi Sakamoto）
国連大学高等研究所研究員
東京

佐々木　雅幸
（Masayuki Sasaki）
金沢大学経済学部教授
石川県

ラトナ・ラナ
（Ratna S.J.B. Rana）
いしかわ国際協力研究機構所長
石川県

「文化的多様性と創造都市の連携・発展のための金沢アジェンダ」

“世界創造都市フォーラム2008 in KANAZAWA”（10月17日）に参加した私たちは、シンポジウムにおける発表と討論を通じて、以下のとおり、共通の目標をもって行動することを宣言するものである。

グローバル化と知識情報化の進展がもたらす文化の画一化や社会的経済的格差に抗して、文化的多様性を保持し、市民の生活の質を高めるためには、固有の文化と産業の連環により持続可能な発展を遂げる「創造都市」の実現こそが緊要であり、世界が目指すべき都市像であると考えられる。

そのために、以下の諸点について、その重要性を参加者一同で合意し、創造都市の実現とさらなる発展に向けて、各方面に働きかけるものとする。

（1）都市固有の文化と文化的多様性にもとづく創造都市の展開
（2）市民の生活の質を高め、都市経済の推進力となる多様な創造的文化産業の発展
（3）創造都市における芸術家の文化的、社会的、経済的な役割
（4）公共、民間、市民セクターの連携による都市問題の創造的解決
（5）ユネスコが進める文化的多様性への取組と連動したグローバルなレベルでの都市相互の連携をはじめ、アジアレベル、全国レベルでのネットワークの構築

2008年10月17日
世界創造都市フォーラム2008 in KANAZAWA参加者一同

Kanazawa, Japan City of Craft